

Title	生命保険会社の今後の戦略における一考察 - STELLAを活用してモデル構築とシミュレーション -
Sub Title	
Author	山田雄之(Yamada, Takayuki) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1739号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1739

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	青井研究会	学籍番号	80029049	氏名	山田 雄之
<p>(論文題名)</p> <p>生命保険会社の今後の戦略における一考察 - STELLA を活用してのモデル構築とシミュレーション -</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>生保業界の業界構造変化と利益構造・行動原理の特性から、生保会社が今後の競争で生き残るための一つの方策として、「本業強化を基本に、純粋な保有契約高拡大原理の考え方のもと、保険本来の損益である三利源損益を重視し、顧客満足・営業職員満足・従業員満足を高めていく。」という戦略を提言する。</p> <p>そして、この戦略を具体的に示すために、システムダイナミクスソフトウェアである STELLA を用いてモデルを構築し、シミュレーションを実行する。モデル構築のステップとしては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前提となる需要を、ミクロ的見地とマクロ的見地から分析。 ② 生命保険業の理想的な形態をモデル化。 ③ ①を反映した現状の生命保険業をモデル化。 ④ ③を基礎に提言した戦略を可能にする構造を構築。 <p>の順番で実施する。</p> <p>このモデル構築とシミュレーションで重要なことは、単純に戦略を実行した場合の影響・結果を明示することだけではない。従来の個々のパーツに焦点をあてた戦略から、全体のシナリオを考えての戦略への転換が、会社全体にどう影響を及ぼすかを明確にしていることである。換言すれば、消費者・営業職員・従業員といった関連するプレイヤー全てをモデルに反映させ、各プレイヤーの満足度を高めるためには会社として何をすることが最善なのかを明らかにすることである。そして、このような考え方の転換が経営の本質における革新であり、これが経営資源に限界のある中小の生保会社の差別化となる競争優位性につながるのである。</p> <p>また、生保会社で提言した戦略にあげた各満足度を高めるためには、生保会社のコーポレート・ガバナンスが重要な鍵となることも認識しておく必要がある。</p>					